

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

309号

2016年11月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

朴槿恵大統領は「崔順実ゲート」の責任を取り、退陣しろ！

10月24日韓国JTBCニュースは、朴槿恵大統領が緊密な関係にあった崔順実(チェ・スンシル)氏に、国政や外交安保など国家の重要機密文書を渡して意見を聞いていた事実を報道した。

「崔順実ゲート疑惑」が事実であったことが判明し、朴大統領自らが関与していたことが明らかになった。朴大統領も機密文書を漏洩した事実を認め、会見を開き頭を下げて国民に謝罪した。

JTBCニュースは崔氏のパソコンを入手して内容を確認したところ、大統領選挙当時の演説原稿、大統領当選当時の李明博大統領との対談の内容、安倍首相の特使との

会談に備えた準備原稿などが記録されていた。李前大統領との単独会見では、国債発行(1兆4千億ウオン)の必要性や、韓国国防部が北朝鮮の軍事委員会と3回にわたり秘密接触を持った事実が盛り込まれていた。また安倍首相の特使との会見

準備原稿には、独島への対応策や「慰安婦」問題に関する韓国側の態度などが書かれていた。朴大統領の責任は重いと言わざるを得ない。

パソコンの入手経路について関心が集中する中、朝鮮日報はJTBC側の説明として、当該パソコンは現職の大統領官邸キム・ハンス専任行政官が開設したものだとしている。キム行政官は朴大統領選対本部でSNS広報担当だった。またパソコン内にあった大統領演説関連文書44件の内4件が朴大統領の側近中の側近であるチョン・ホソン官邸付秘書官だと分かり、イ・ジェマン総務秘書官、アン・ボンゴン国政広報秘書官と共に「大統領官邸ドアマン3人組」と呼ばれるグループが、機密文書漏洩に関わっていたものと思われる

とされた。さらに崔氏のパソコンには朴大統領と関係があると思われる「great park1819」のIDで送られたEメールアドレスが発見され、朴大統領本人との関連が疑われている。

大統領官邸の人事にも崔氏の元夫チョン・ユンフエ氏が関与したとの報道が相次いでいる。「大統領官邸ドアマン3人組」も崔氏が推薦した者たちだったことが明らかになっている。

崔氏は10月30日に海外から帰国、検察が調査を行うことを明らかにしている。

国会は与野党共に事態を深刻に受け止め、真相

究明のために特別検察制度の導入を決めた。予算審議が急がれる中、朴大統領自らが招いた国難の対応に追われ、民生・経済・安保・外交などの重要案件は審議にも入れない状況だ。そして現在、朴大統領の支持率は20%を下回り、就任後最低となっている。与党セヌリ党代表は、大統領府の

参謀陣の入れ替えと内閣改造を朴大統領に申し入れるなど民心の引止めに躍起になっている。

崔氏と朴大統領の関係は40年余りになるとされている。「崔順実ゲート疑惑」の発端となった、ミル財団のイ・ソンハン前事務総長は「崔氏が大統領に指図する口調」だったと述べ、「朴大統領が単独で決めることはない。崔氏に聞いて、承認を得て可能になると見るべきだ」と内情を明かし、崔氏が国政に口を挟んでいた疑いが浮上している。

国家機密文書の民間人への流出事件の中心にある朴大統領に、国政運営を任せることへの懸念が国民の間に急速に広まっている。朴槿恵大統領は「崔順実ゲート」の責任を取り、退陣しなければならない。(李鐵)



▲「朴槿恵退陣」と書かれたプラカードを持ち、集会に参加する韓国民衆

孫亨根 韓統連中央本部議長が 韓国社会構成体論などについて解説 ウリ歴史近現代史Ⅱ

韓統連関西地域協議会主催の「ウリ歴史 近現代史Ⅱ」が10月16日(日)、小田地区会館(兵庫県尼崎市)で開かれた。

前回に引き続き講師として孫亨根(ソン・ヒョンゲン)韓統連中央本部議長を招き、2部形式で行われ、第1部は「北朝鮮を正しく見る」をテーマに進行した。



▲韓国社会構成体論について解説する孫亨根議長

孫議長は最初に「北朝鮮の最大の危機だったのは、ソ連・東欧社会主義圏の崩壊、中国の変化、金日成主席の逝去などがあった1990年代で、その時期から核・ミサイル問題、経済危機など北朝鮮に対する批判が強くなった」と指摘した。

そして「北朝鮮が、そうした厳しい状況を乗り越えられたのは、民族を重視する独自の社会主義と思想教育の徹底、民族自主性を堅持してきたため」と述べながら、「権力の継承も外部勢力などに全く影響されず、北朝鮮の国民的合意のもとに求心点が決定された」と語った。

続いて第2部は「韓国における統一運動の理論問題」をテーマに行われた。孫議長は「韓国社会では長きにわたり、祖国分断の原因と社会現状に関する社会構成体論争が行われてきた」とし、

「その主な内容は韓国社会が米国の従属下(新植民地支配)にあるのか、独占資本による社会支配にあるのかの2点で、過去の独裁政権と米国との関係などを見ても、韓国社会は米国による新植民地支配ある」と指摘し、「米国による支配から脱却し、祖国統一を実現するためには、韓国社会で労働者・農民・青年学生など全ての階層を網羅し

た統一戦線体の構築が重要だ」と主張した。

その後、質疑応答が行われ、最後に孫議長から10月6日～7日、中国・瀋陽で開かれた「10・4宣言発表9周年 南・北・海外共同討論会」の報告が行われ、学習会は終了した。

10・4宣言発表9周年 康宗憲氏を招き、セミナーを開催 韓統連セミナー

2007年の南北首脳会談で合意・発表された10・4宣言から9周年を迎え、韓統連大阪本部主催で「韓統連セミナー 10・4宣言9周年 朝鮮半島の戦争と平和—南北関係の改善に向けて—」が10月2日(日)、東成区民センター(大阪市東成区)で開かれた。

セミナーでは最初に、昨年11月ソウルで行われた民衆総決起闘争で警察の放水銃の直撃を受け意識不明の重体になり、去る9月25日に亡くなったペク・ナムギ先生への黙祷を行った後、金隆司(キム・ユンサ)韓統連大阪本部代表委員が主催者挨拶を通じ「10・4宣言から9年が経過しますが、依然として南北関係は改善されず、軍事的緊張はますます高まっています」と述べながら、「今日のセミナーを通じ、南北の和解・協力は果たして実現できるかなどについて、皆さんと討論を深めていきましょう」と語った。



▲朝鮮半島情勢について講演する康宗憲代表

次に、韓国問題研究所代表である康宗憲(カン・ジョンホ)さんが講演を行った。康氏は、北朝鮮がなぜ核・ミサイルの開発に進むのかについて「北朝鮮の核・ミサイル開発は、朝米敵対関係の産物」と指摘するとともに、「イラク・リビアなどを教訓に、自国の体制を守るため」と語った。

そして「朝鮮半島の非核化を実現するためには、朝米関係の改善と停戦協定を平和協定に転換すること。軍事的圧力では問題は解決しない」と述べ、「南北関係は遮断された状態が継続しているが、南北関係が改善の方向に進めば、東北アジアの緊張緩和にもつながる」と主張した。

講演後は質疑応答を行い、続いて、崔誠一(チュ・ソンイル)事務局長が、韓統連が取り組んでいる北朝鮮水害復旧支援募金の協力要請を行い、最後に姜明寿(カン・ミョンス)副代表委員が閉会挨拶を行い、セミナーは終了した。

辺野古・高江の基地建設を許さず 憲法9条を守ろう！ 10・10反戦平和集会

韓統連大阪本部も実行委員会構成団体として参加している「10・10戦争あかん、基地いらん関西のつどい2016(主催:同実行委員会他)」が10月10日(日)、エルシアター(大阪市中央区)で開かれ、800余名が参加した。

集会では、田渕直さん(戦争させない1000人委員会)が開会挨拶を行った後、第1講演として参議院議員の糸数慶子さんが「辺野古・高江基

地建設を許さない」をテーマに講演を行った。糸数さんは「戦後、沖縄は過重な米軍基地負担を押しつけられ、現在に至っては負担の縮小どころか、逆に負担が拡大している」と語った。

そして、沖縄では先の参議院選挙で自民党候補が大敗したことについて「辺野古基地建設の強行など、民意を無視した安倍政権＝自民党の政策に対する批判だ」と述べ、「基地のない沖縄を実現するために、これからも共に闘っていこう」と訴えた。

続いて第2講演では、「週刊金曜日」編集委員の成澤宗男さんが「日本会議と戦後という時代」をテーマに講演を行った。成澤さんは「最近、突然出てきた日本会議というイメージがあるが、戦後から神社勢力が行ってきた占領政策からの回復運動の延長線上に生まれた団体」と語った。

そして「彼らは戦前回帰のための活動を粘り強く行っている。私たちも粘り強く護憲・反戦運動を進め、平和を実現していこう」と訴えた。

その後、集会では各団体からの決意表明が行われ終了した。その後、参加者はデモ行進を行い「沖縄の米軍基地を全て撤去せよ」などのスローガンを叫び、道行く人々に訴えた。

〈次代を担う若者たち－韓青大阪本部 活動紹介－〉

アンニョンハシムニカ、韓青大阪本部の李俊一(イ・チュニル)です。すっかり涼しくなってきましたが、皆様いかがおすごしでしょうか？

韓青大阪本部は10月10日に東京都千代田区の日本教育会館で開催された「10・4宣言9周年在日同胞青年学生統一文化コンサート」に参加しました。主催は朝青・韓青・留学同・学生協・青商会・朝大委員会などで構成される6・15青年学生協議会です。

韓青は統一の歌として「私たちの旗」「汎青学連歌」を朝青と合同で歌い、韓青単独では「京義線に乗って」の律動を披露して会場を大いに盛り上げました。韓青大阪本部のメンバーは、ここ数年の間に参加したメンバーが多く、歌そのものを知らない人も多いので、事前に歌の指導を徹底しました。歌を学ぶ過程で先輩方が進んでこられた統一運動の歴史に触れることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

また22日には生野区で開かれた「いややねん戦争子どもまつり」に参加し、サムルノリを披露させて頂きました。毎年地域の子供もたちが集まり、平和について考えるお祭りですが、生野区で開催とあってチャングの音を聞くと、一斉にステージに注目が集まり、会場の盛り上げに貢献することができました。このように地域の同胞たちと触れ合う機会を、より増やすことができればと思います。

11月は秋期韓国語開講式など同胞青年を集める活動を意欲的に展開していきたいと思っています。もしお知り合いの同胞青年などいましたら、ぜひご紹介ください。よろしくお祈りします。



▲サムルノリを披露する韓青のメンバー

10・4宣言9周年を記念して、青年学生統一文化コンサート開催

韓青京都本部委員長 韓成祐(ハン・ソウウ)

10月10日、東京都千代田区の日本教育会館で、「10・4宣言9周年在日同胞青年学生統一文化コンサート」が開かれ、関西からも多くの韓青・学生協メンバーが出演しました。

今回のコンサートは、6・15青年学生協議会の主催で行われました。聞き慣れない方のために少し説明しますと、6・15青年学生協議会は、6・15共同宣言実践民族共同委員会日本地域委員会に所属する青年学生団体が中心となって、2014年10月に結成されました。現在は韓青・学生協・朝青・留学同・青商会・朝鮮学生委員会が加入しています。東京だけでなく地域単位でも

積極的な統一運動を実践しており、今年4月28日の「自主統一の新時代を開く在日同胞青年学生たちの集い」でも、10・4宣言9周年を記念した文化コンサートの開催を発表しました。

当日、私たちは韓青中央本部に集合して行動計画を確認し、昼食後、会場に移

動してリハーサルが始まりました。ここで初めて韓青以外の団体出演メンバーと合流したのですが、歳が近いこともあり、すぐに打ち解けられました。各団体の出演はどれも個性的で、舞台上では本番さながらの緊張したリハーサルが続いていました。

韓青は90年代に汎民族大会などで歌われた「私たちの旗」「汎青学連歌」を朝青と合同で歌う演目と、韓国の統一文化祭や統一マダンでもお馴染みの「京義線に乗って」の律動出演、最後に出演全団体から選抜して歌う、この日のために作られた新しい統一の歌「歌おう6・15、取り戻そう6・15」に出演しました。私は歌の方に出演しましたが、律動メンバーが全員で打ち合わせしながら振付を合わせている姿が印象的でした。

午後6時に開演し、800人収容できる観客席はほとんど埋まっていました。コンサートは3部形式で行われ第1部は祖国解放から分断へ、分断時代の闘いを当時の歌とともに振り返り、第2部

は6・15共同宣言以降、6・15時代の到来の歓びを歌や踊りで表現しました。第3部は反動の現在に戻り、第2の6・15時代を取り戻す闘いに取り組もうという内容でした。最後は群舞で会場を踊り歩き、大喝采の中終了しました。また「南と北の青年学生に送るアピール文」が発表され、南北海外の青年学生が統一運動の先頭に立ち、南北海外青年学生が参加する青年学生統一大会合を実現させようと訴えました。

今回、出演した感想としては、とても意義深い一日だったと思いました。一緒に出演した韓青メンバーは何より、出演した全ての青年学生たちが

来年の10・4宣言10周年をはじめとして、これから共に統一祖国を作る同志だということが感じられる一日でした。また観覧に来ていた若い世代の人たちにも、私たち民族が歩んできた苦難の歴史と統一新時代の輝きを見せることができたと思います。

なぜ「コンサート」なのか、

それは統一運動の現場では必ず「歌」が歌われてきた歴史があるからです。闘争の歴史は文化となって現代に継承されています。そして、いつの時代も闘争の最前線にいたのは青年学生でした。現代の青年が歌を通じて歴史・民族とつながることで、新たな統一運動へと一歩踏み出す決意を表現する場、それが統一文化コンサートでした。

10・4宣言10周年に向けて、在日青年学生6団体が結集して統一の歌を歌ったことは、来たる第2の6・15時代において輝かしい歴史として記録されるでしょう。私もその場に参与できたことを誇りに思い、これからも日々邁進していきたいと思っています。



▲力強く歌を歌う韓青・朝青のメンバー



【投稿】

私の韓国旅行 民族の文化を肌で感じる

金正樹 (キム・ジヨンス)

10月2日～4日まで韓国の釜山と安東に行ってきました。

1日目の釜山では昼間は軽く散歩して、夕方にスポーツマッサージした後、夕食はサムギョプサルを食べました。

2日目は安東の河回村(ハフエマウル)で行われている「安東国際仮面劇フェスティバル」に行ったのですが、ホテルの近くにある地下鉄の駅から釜山高速バスターミナルまで行き、そこから安東行きのバスに乗り安東バスターミナルまで行き、その上で河回村のバスに乗ってやっと会場に着きました。

私が観に行ったのは「河回別神クッタルノリ」。村の守り神・ソナン神に村の豊穰を祈願するため、古来より祭祀(チェサ)の一部として行われてきました。河回村で仮面劇を鑑賞したのですが、公演中、観客の笑い声が聞こえるのですが、ウリマル(母国語)が分からないので「やっぱ自分は勉強不足やなあ、意味わからんわな。でもやっぱさすが本場のタルチュム(仮面の舞)やなあ」と思いながら観つつ、メインである仮面劇はなんとか観ました。しかし、それだけを観て河回



▲河回別神クッタルノリ

村から安東に戻り、そこから釜山高速バスターミナルに着いたのが午後8時前、そしてバスターミナルの中にある食堂で食事を済ませ、地下鉄に乗り午後9時前にホテルに戻りました。とにかく行きと帰りの長時間によるバス移動が疲れました。仮面劇がメインなのに、バスの移動がメインみたいで、なんかあっけない感じでした。

3日目はホテルの近くのロッテデパートでお土産を買い、飛行機に乗り大阪に帰りました。まあ今年もいろいろあって、いつもの珍道中でした。

私の韓国旅行はただの旅行ではありません。我が祖国の民族的な文化を見て、触れて、肌で感じ、ルーツを求め、また民族愛、郷土愛、いわゆる愛国心を

今までよりさらに強めていくためです。だからこそウリマルはしっかりと学ぶべきだとあらためて思いました。授業を受けるだけではなく、予習復習を怠けない、それだけで違うねんなあと思いました。来年まで精いっぱい頑張っていきたいと思えます。あ～2日目のバス移動ホンマ疲れたわ(笑)。

「金泰憲(キム・テホン) 記念文庫」をリニューアルしました

韓統連大阪本部事務所に併設されている韓国・朝鮮関連図書室「金泰憲記念文庫」がリニューアルされました。この間、各方面から寄贈された図書の整理が追い付かず半ば倉庫状態となっていました。この度図書の整理が完了しました。図書の閲覧とともに貸し出しも行っていますのでふるってご活用ください。

平日の午前10時から午後5時まで利用可能です。時間外のご利用にもできるだけお応えしたいと思っていますので、ご利用ご希望の方はご一報ください。



▲金泰憲記念文庫

◆◆読書紹介◆◆

二つのコリア (第三版)

国際政治の中の朝鮮半島

著者:ドン・オーバードーファー/ロバート・カーリン

共同通信社 3700円+税

本書は、元ワシントンポスト特派員と朝米交渉現場担当者の共著による朝鮮半島現代史について書かれた歴史書です。特に1970年代～2010年代現在までの朝鮮半島情勢について詳しく書かれています。

本書を読んで分かることは、①米国は核攻撃の脅迫や韓米合同軍事演習を実施することによって、北朝鮮に対して軍事的圧力を加え続けていること。②側近や米軍幹部の反対によって、カーター大統領(1977年～1981年)の在韓米軍撤退計画が挫折したこと。③米軍のベトナム撤退やニクソン大統領の中国訪問などによって、米国に対して不信感を持つようになった朴正熙大統領(現在の朴槿恵大統領の父)が、フランスからの協力を得て核開発を実施したこと。④偵察機や偵察衛星、偵察隊などが投入された米国・韓国対北朝鮮のスパイ戦が朝鮮半島で行われてたこと。⑤9・11が起きた後、北朝鮮は速やかに米国に哀悼のメッセージを送ったことなどです。

本書を読んで私が特に寒気を感じた部分は、第11章「核問題への関与(258P)」と第13

章「核兵器をめぐる対決(289P)」で書かれていた、米国と北朝鮮が戦争寸前の状態になった朝鮮半島の核危機(1993年～1994年)に関する記述です。当時の米国はパトリオットミサイルや攻撃ヘリコプターを韓国に配備したり、国防総省

で米軍幹部を招集した朝鮮半島への米軍の増派を計画する軍事会議を開催するなど、北朝鮮に対する戦争準備を進めていたのです。

323Pに書かれていた「朝鮮半島で戦争が勃発すれば、最初の90日間で米軍兵士の死傷者が5万2千人、韓国軍の死傷者が49万人に上るうえ、北朝鮮側も市民を含めた大量の死者が出る見通しだ」という部分には戦慄を覚えました。

本書の序文には「物語は未完」と記しています。現在というのは過去の歴史の積み重ねなので、過去の朝鮮半島の歴史を学ぶことによって、現在の朝鮮半島情勢(サードミサイル配備決定問題など)を正しく理解するためにも本書をお勧めします。もし「第四版」が刊行された時には、祖国統一が実現していて「物語は完結」と記されることを願うばかりです。李淳明



◆◆行事案内◆◆

<p style="text-align: center;">韓統連生野支部定期学習会 韓国政治の現状と私たちの未来</p> <p>日 時: 11月13日(日) 午前11時～</p> <p>場 所: 韓統連生野支部 大阪市生野区勝山南4-1-13</p> <p>資料代: 会員300円 一般500円</p> <p>連絡先: 090-4561-8414 (孫)</p>	<p style="text-align: center;">2016年韓統連大阪本部 送年のつどい</p> <p>日時: 12月11日(月) 午後5時 受付 午後5時30分 開会</p> <p>場所: KCC会館(地下鉄今里駅下車徒歩10分)</p> <p>会費: 2000円(お酒を飲まない方1500円)</p> <p>内容: 朝鮮半島情勢及び 韓統連の主な活動を振り返る 他</p> <p>主催: 韓統連大阪本部 TEL06-6711-6377</p>
---	--

編集後記

今年も早いもので残すところ2ヶ月余りになり、朝晩は少し寒く感じます。そろそろストーブを出す日が近づいてきました。今年の冬の灯油料金は高くなるでしょうか? 気になります。(ソン)